**２０２３年７月29日(土)　高原美術館会場**

横澤放川

生きているだけで自賛の極暑かな 貫　韓山

車前草や浅間に発す大傾り 小川雪魚

弓なりに嬰の癇癪雲の峰 石田経治

鬩ぎ合ふ地熱炎熱大浅間 小川雪魚

〇 日盛や百葉箱の中に闇 石田経治

土肥あき子

涼風の胸所に来ては背に来ては 横澤放川

〇 夏白蝶生るるも死すも草の城 宮坂恵子

キャンバスを立て緑陰に風を呼ぶ 海野良子

日覆を真帆のごとくに山の風 横澤放川

片蔭や母の手の鳴る方へ向く 勝又樂水

大塚次郎

赤岳も蓼科山も雲の峰 青木百舌鳥

万緑の底を二両の見え隠れ 田中幸子

日盛や百葉箱の中に闇 石田経治

万緑の一樹となりて吹かれたし 土肥あき子

〇 山城といふ一山の草いきれ 土肥あき子

星のミラ

片陰を行けば店主の近寄り来 山本よしえ

山城の溶岩の石積み蟬時雨 平松貴子

〇 片蔭の尽きて信濃の風に会ふ 貫　韓山

日盛や百葉箱の中に闇 石田経治

行く夏のしな鉄二輌はるか行く 武居玲子

平松貴子

赤岳も蓼科山も雲の峰 青木百舌鳥

みんみんや時の風吹く櫓跡 小川雪魚

葛の葉に呑みつくされし曲輪跡 宮坂恵子

別れ道片蔭のある方へ行く 星のミラ

〇 万緑の一樹となりて吹かれたし 土肥あき子

貫　韓山

灼けている墓石緑陰にも墓石 大塚次郎

夏白蝶生るるも死すも草の城 宮坂恵子

道おしえ古地図になくも女坂 勝又樂水

山城といふ一山の草いきれ 土肥あき子

〇 青年の御目涼やかに出征す 山本よしえ

青木百舌鳥

弓なりに嬰の癇癪雲の峰 石田経治

片蔭に鳥の骸や虫の死や 土肥あき子

〇 背の高き師を追ひかけて片陰へ 山本よしえ

火山岩混りの垣や凌霄花 石田経治

緑陰に長居して貌失へり 海野良子

海野良子

〇 青山の囲む城跡三尺寝 田中幸子

石垣の片陰を行く小諸かな 武居玲子

片蔭の尽きて信濃の風に会ふ 貫　韓山

涼しさや絵の能面に浮む笑み 大塚次郎

マジシャンのカードの如く黒揚羽 大塚次郎

勝又樂水

〇 生きているだけで自賛の極暑かな 貫　韓山

背の高き師を追ひかけて片陰へ 山本よしえ

山城といふ一山の草いきれ 土肥あき子

山百合や土に還らす石佛 石田経治

葛の葉に呑みつくされし曲輪跡 宮坂恵子

山本よしえ

万緑の一樹となりて吹かれたし 土肥あき子

夏白蝶生るるも死すも草の城 宮坂恵子

みんみんや時の風吹く櫓跡 小川雪魚

稜線に暑のまとひつく馬頭尊 海野良子

〇 山城といふ一山の草いきれ 土肥あき子

宮坂恵子

鬩ぎ合ふ地熱炎熱大浅間 小川雪魚

〇 濃紺に一本高き白桔梗 田中幸子

病葉や生きた証を残さむと 大塚次郎

山百合や土に還らす石仏 石田経治

片陰や母の手の鳴る方へ向く 勝又樂水

小川雪魚

夏白蝶生るるも死すも草の城 宮坂恵子

浅間嶺へ階なせる青田かな 青木百舌鳥

涼しさや絵の能面に浮む笑み 大塚次郎

〇 日覆を真帆のごとくに山の風 横澤放川

マジシャンのカードの如く黒揚羽 大塚次郎

武居玲子

日覆を真帆のごとくに山の風 横澤放川

〇 首を振る蜻蛉の眼に銀の穹 小川雪魚

片蔭の尽きて信濃の風に会ふ 貫　韓山

日盛や百葉箱の中に闇 石田経治

山城といふ一山の草いきれ 土肥あき子

田中幸子

夏白蝶生るるも死すも草の城 宮坂恵子

山城の溶岩の石積み蟬時雨 平松貴子

〇 浅間嶺へ階なせる青田かな 青木百舌鳥

涼しさや絵の能面に浮む笑み 大塚次郎

寝そべつて待てば夏蝶来たりけり 小川雪魚

石田経治

涼風の胸所に来ては背に来ては 横澤放川

片陰を行けば店主の近寄り来 山本よしえ

涼しかりけり隆起する岩絵の具 土肥あき子

日覆を真帆のごとくに山の風 横澤放川

〇 片陰や母の手の鳴る方へ向く 勝又樂水